

別海町指定文化財

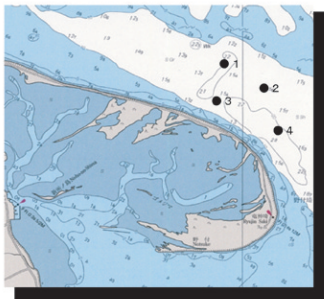
野付半島沖マンモスゾウ臼歯化石群

(平成18年4月27日指定)

第四紀更新世（160～1万年前 氷河時代）の日本列島は、しばしば陸続きになり南や北のルートを通して動物達が大陸から移動してきました。北のルートを通ってきた動物にマンモスゾウがあげられ、気候が寒冷な北緯50度以北のシベリア、アラスカで約7～1万年前まで生息していました。日本では、北海道の夕張市、えりも町、由仁町、根室海峡海底下などで12個の臼歯化石が発見されています。

年代測定によると北海道に生息していたのは、約6～2万年前頃だったようです。

野付半島沖では、いずれもウニ、ホタテ漁の際に見つかったものです。4個の臼歯化石がほぼ同じ海域から発見されています。まだまだ、海底に眠っているものもあるのではと期待をよせています。



発見された場所

『海上保安庁刊行海図W18の付水道付近(2005.12.1)』

- 1 野付崎標本 右下顎第3臼歯
(約2万年前)
- 2 トドワラ標本
右下顎第4乳歯or第1大臼歯
- 3 野付崎第2標本 左下顎第1大臼歯
(約4万3千年前)
- 4 野付崎第3標本 右上顎第1大臼歯
(約4万1千年前)

